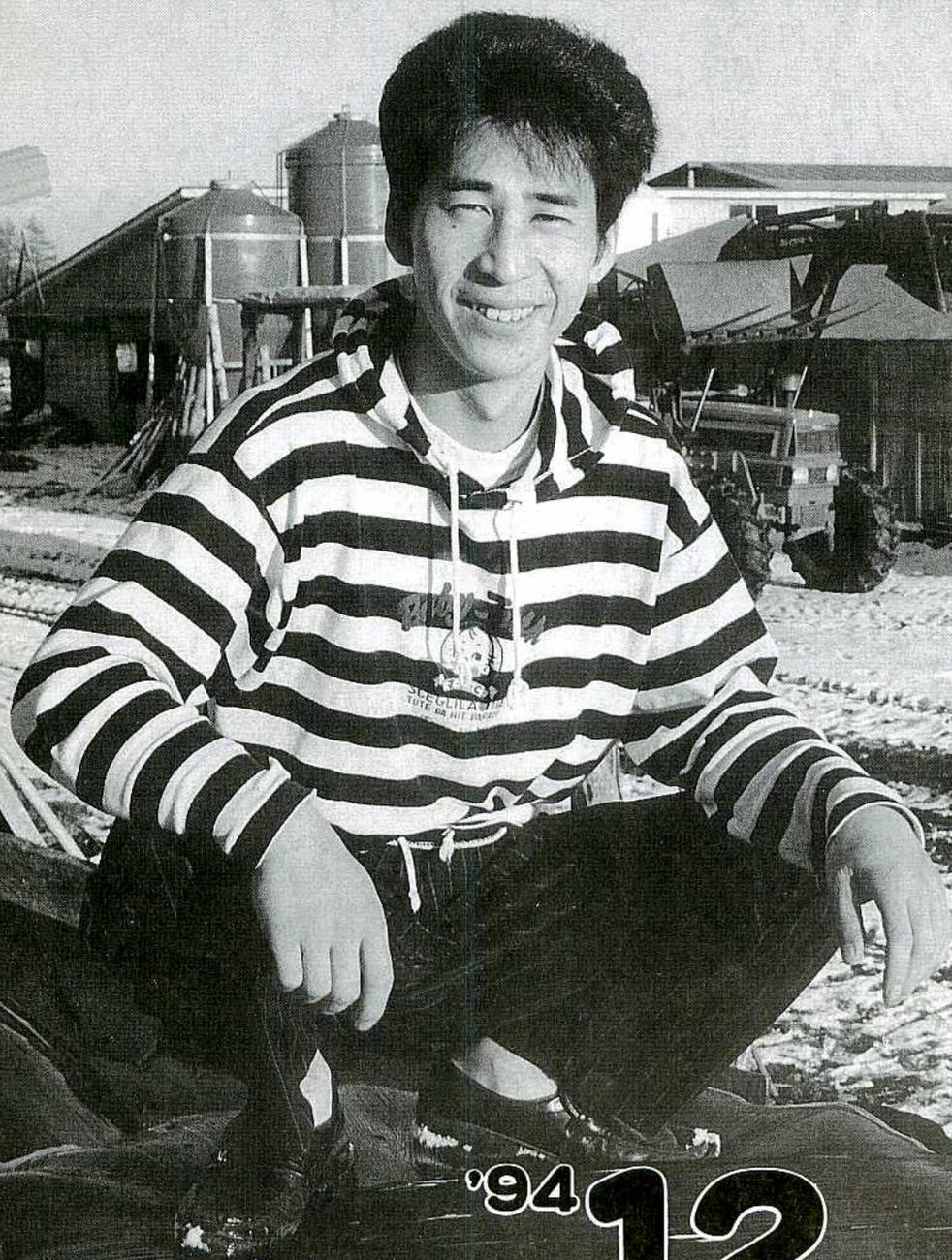


のうきよう ちがしべつ



'94 **12** No.240

のうきょう ちんぱつ

なわしべつ町で生まれた
ケフィアオーレ。
生きなまよの乳酸菌と酵母、
本物へのこだわりを楽してみたい。



もくじ

- 1 ——— 〈シリーズ〉
未来を担う若者
中塚 広文さん(25歳)
- 4~5 — 〈営農技術〉
乳牛の減価償却
- 6 ——— **根室管内農業賞**
奥田 勝佳さん(67歳)
- 7 ——— 〈わが家の人気者〉
ごはんモリモリ、元気っ子
長瀨 昌樹くん(4歳)
- 8 ——— **乳製品工場の完成を祝う**
「ケフィアオーレ」全国に向け販売
- 9 ——— 〈新婚さんこんにちば〉
久本哲二・己嘉さん
- 10 ——— 〈第42回全道J A婦人部大会〉
「女の自立、男の自立」をテーマに
- 11 ——— 〈組合長日誌〉
経営健全化の道を目指して
- 12 ——— 〈根室地区J A青年部大会〉
どうする根室酪農！を考える
- 13 ——— 〈和牛研修会〉
繁殖、哺育育成がポイント
- 14 ——— 〈中標津野菜研究会〉
初の収穫、出来ばえは？
- 15 ——— 〈理事会の経過〉
第11回理事会
- 16~17 — 〈暮らしの知恵袋〉
新しい年に向け、そして将来に向けて
- 18~19 — **今月のフォトアルバム**
- 20 ——— **11月の組合日誌**

あす 未来を 担う若者

西武佐 中塚 広文さん(25歳)



家族みんなが顔の見える農業を基本にしたいと話す広文さん

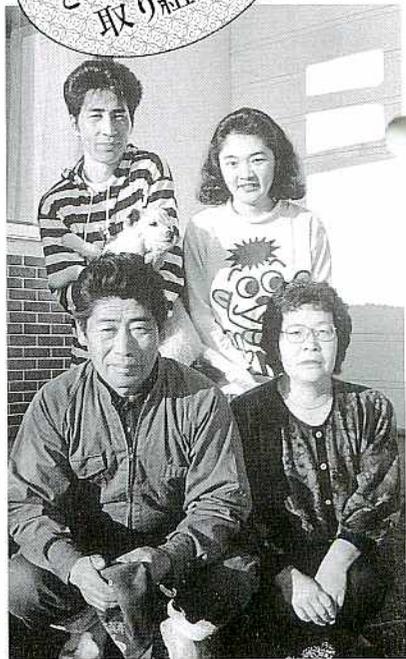
「農業っていいなり、やるべきえやれば後は自分の時間が持てる。仕事だって家族みんなが顔の見える中で出来るんだ」と自分の選んだ農業を表現する中塚広文さん。今年四月には奥さんの吾希さんと結婚、農業後継者として武佐の大地にしっかりと根を伸ばし始めた。中塚牧場は、四十畝の経営面積

家族の顔の見える農業を

に乳牛約九十頭(経産牛五十頭)、牛乳三百三十リットルを出荷する酪農業農家で文夫さん(五十九歳)が経営主。今から七、八年前までは、乳牛頭数約五十頭ほどだったというが、広文さんが後継者として歩み始めてから少しずつではあるが規模拡大を進めて来たという。

広文さんは四人兄弟の長男で、武佐小中学校を卒業後は中標津農業高校へ進学。この農業高校を選んだ事が、広文さんにとって農業を継ぐ決心の第一歩となったようだ。高校では、農業の基礎知識を学ぶと共に、実績発表に取り組み、全道大会へ出場。「カーフハッチによる仔牛の育成技術」というテーマで、

家族が一体
となって農業に
取り組む



何事にも相談する中塚ファミリーです



ごと優秀位を獲得したそうです。高校を卒業後は農業に就き、実戦の中で技術を研く事になるが、同時に農業開発公社の草地改良事業に三年間アルバイトで行ったり、農協の青年ヘルパーも二年間行なった。またミルカーの取付け作業も業者に頼まれ、五年間ほど手伝

ったそうだ。これらの事はアルバイトという形だが、お金を得るという事よりは、広文さんにとって、自分の家では学ぶ事の出来ない貴重な体験の場になったという。

現在では、農作業はもちろんの事、営農計画書や税金の申告もほとんど広文さんに任されているとの事だが、何をやるにも必ず家族で相談してからやるそうだ。「うちの農業は家族労働で成り立っている。家族みんなが仕事や経営内容をわかっていなければ、うまくいかなからね」と広文さんは話す。将来については、「何年後にこれをしようという計画はないが、現状施設を有効に活用し、家族労働で出来る農業を。また、親からの農業を継続し、自分たちの子供へと継がせる農業にしたい」と話す広文さんです。

乳牛の減価償却費

師走の季節となり営農計画など忙しい事と思いますが、この時期から農業簿記の決算や税金の申告の準備をしておく、冬の間自分の経営を見つめ直す時間を多く作れる事になるので、早めに決算の整理をするに越した事はありません。

そこで今回は減価償却費に焦点を当てて、若干説明を試してみたいと思います。

酪農経営は多くの固定資産を使って経営を行なうわけで施設・機械の償却費計算も多いのですが、なんととってもやっかいなのは乳牛の減価償却費計算です。減価償却費がなければ、めんどくさい計算もなくてすむし、どれほど楽かわからないという人が大勢いる

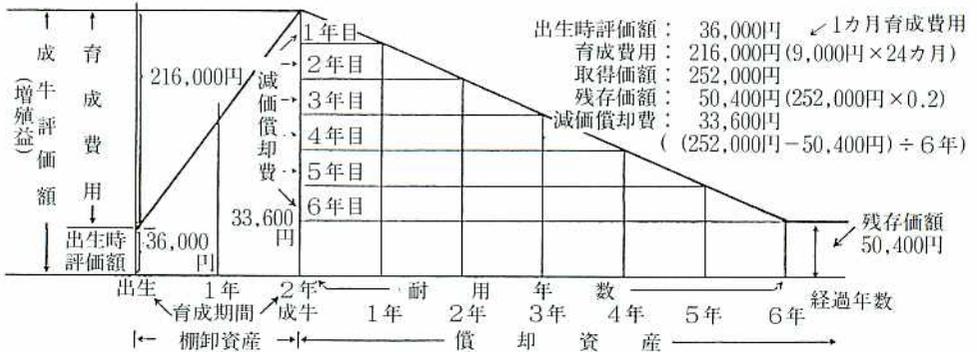
事でしょう。

しかし、これは酪農家の宿命と想ってもらうしありません。特に乳牛の資産については子牛の誕生や販売・購入があり、処理方法が違いますので、乳牛に管理台帳を作るなどして乳牛の動態・処理方法・価格などをしっかりと把握しておく事が大切です。この作業さえ終了すれば半分以上は計算できたと同然です。

減価償却とは一般に、このように説明されています。

「事業主が事業用として所有する建物施設・機械器具・乳牛などは事業のために取得後引き続き使用されるものですが、使用時間の経過と共に摩耗、減損して最終的には無価値、または無価値に近いもの

乳牛の増殖・減価償却のパターン(自家産牛の場合)



になり、帳簿上の資産の価値として配分し、帳簿上の資産の価値

ミルククーラーの点検を!

点検実施には5,000円の助成

農協酪農対策協議会

北海道東方沖地震により、農業関連施設に大きな被害をもたらしましたが、搾乳器機や、バルククーラーにも被害が及んでおります。機器の未点検により、搾乳牛へ影響を及ぼしたり、汚染乳を生産することになれば経済的損失が大きくなります。

このようなことから、農協酪農対策協議会では良質乳の生産を目指すうえで、ミルククーラー及びバルククーラーの点検を実施した生産者に助成金を支出することとなりま

を減少させなければなりません。
このような資産の取得原価の必要経費配分を減価償却といいます。

一般的には取得した月から減価償却が始まるわけですが、乳牛の場合には少し異なります。乳牛は成牛になって初めて生産に貢献するという事で、成牛にならないと減価償却というのが行なわれません。成牛になって初めて固定資産とみなされるのです。乳牛の耐用年数は六年・残存価格は二〇%（ただし、在存価格が十万円を超える場合は十万円とする）となっています。しかし、成牛になる期間や評価額は様々に設定されているのが現実です。成牛になる期間を十八カ月にする場合や、二十四カ月にする場合などです。

また、評価額を税務署の数字を使う場合や、育成費用を考慮して作る場合などです。

本来は自己申告なわけですから、数字が様々にできてきても、その数字がでてきた根拠さえ明確にされれば問題はありませぬ。ただし、その評価方法に継続性があればという条件が付きませんが、一般

的には税務署の数字を使うのが無難と思われまふ。

一方、成牛になるまでの間はどうに考えたらいいのでしょうか。この期間は、生まれたときの評価額に一カ月ごとの育成費用が加算されていく事になり、その加算評価額が育成増殖益という事になり、評価額合計が棚卸資産として評価される事になります。

これまでは自家産牛についてみてきましたが、次に購入牛についてみてみましょう。

育成牛を購入した場合は、購入金額に、成牛になるまでの育成費用（育成増殖益）を加えた額が、成牛になったときの評価額となります。つまり、自家産牛の評価額とは異なるので、税務署の早見表などは使えないという事になります。成牛を買ったときは、育成牛のときの耐用年数が六年であるのに対して、それより短くなります。つまり償却終了年月引く購入年月が耐用年数となります。

このように育成牛購入については、購入金額に育成費用（育成増殖益）を加えた金額、成牛購入に

ついては購入金額を基点として、それぞれの耐用年数で減価償却を行なっていくという事になります。耐用年数は月割りでも年割り計算をしてもよいですが、ようは先ほど述べたように処理方法の継続性がなければなりません。

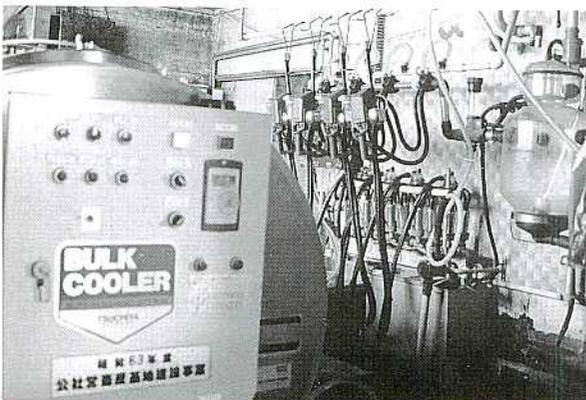
さらに、一年間における実際の減価償却費は、乳牛という固定資産が存在している期間で月割りします。購入、販売が行なわれた場合十二カ月より短かくなりますので注意して下さい。

した。

この助成の対象期間は、地震発生後から十二月末までで、ミルク、バルククーラー両方の点検を実施した方にかぎられ、助成金額は一戸当り五千円となっております。

毎日の大切な作業ですから、点検作業を実施し、万全の状態を生産に励みましょう。

詳しくは農協酪農課までお問い合わせ下さい。



根室管内農業賞

農業賞受賞 奥田 勝佳氏



表彰状を手に奥田夫妻、おめでとうございます

農業経営 地域発展に 尽力

第十八回根室管内農業賞表彰式が十一月十九日、中標津町寿宴で行なわれJA中標津・奥田勝佳氏ら七農協から七人が表彰されました。

この賞は根室管内の基幹産業である農業の振興に貢献され、農協運動と農業経営に顕著な功績を残した功労者を表彰するもの。

式では受賞者七夫妻のほか、各



農協組合長をはじめ、根室支庁、町、農業委員会などの代表者約五十人が出席、農業の振興を図った先人に黙禱をささげた後、高橋節郎同賞委員会委員長が式辞を述べ、受賞者に賞状と記念品が贈られました。

奥田勝佳氏（六十七歳）

〈功績〉大分県大分市で、父（故）繁氏の次男として昭和二年二月二十三日生まれる。昭和二年、一歳の時、両親と共に現在地の当幌に入植、開拓生活の中で遅しく育った同志は、昭和十九年志願し兵役に就いたが、終戦後はシベリアへ抑留となり、昭和二十二年帰国後家事の農業に従事する。翌年、志を持って酪農の知識、技術を身につけるため、酪農学園に入学し、酪農経営への取り組みが始まった。

昭和三十年、町内でいち早く二十七PSのトラクターを導入し、

自家の造成はもとより当幌地区、地区外へ出かけ協力を惜しまず、農地造成に尽力された。

酪農学園で学んだ三愛精神を柱とし、経営移譲後も第一線で活躍され、優秀な経営を行なっている。

昭和四十二年、モデル地区として町内で初めて当幌地区にバルククーラーが導入され、その推進役として、当幌酪農振興会会長であった同志が手腕を発揮し、地域酪農発展のため貢献された。

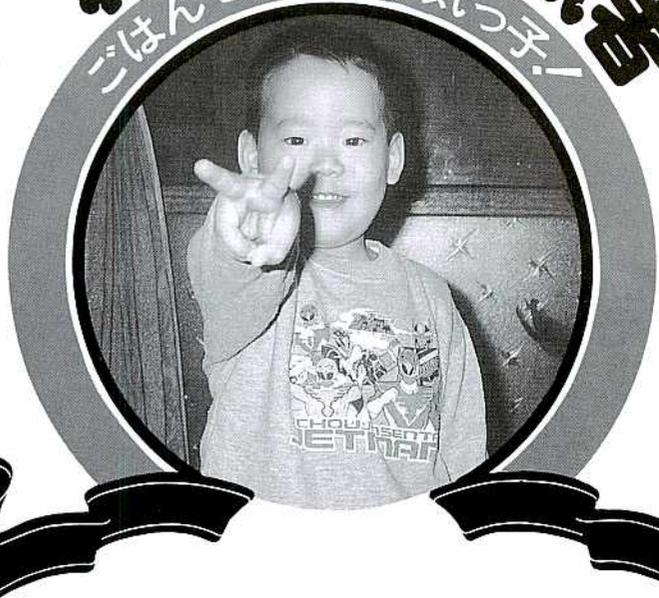
その手腕を買われて、昭和四十八年、中標津町農業共済組合理事に就任し、十五年間農業共済事業推進に尽力されると共に、昭和五十四年から、中標津町農業委員としても農業行政活動に活躍され、温厚な人柄と的確な判断力は、地域はもとより中標津町内外からも厚い信頼を得ており、高く評価されるところです。

受賞者

奥田 勝佳氏（67歳）JA中標津
松井 瓢古氏（69歳）JA標津
竹下 良三氏（67歳）JA計根別
木村政三郎氏（66歳）JA西春別
前田 正敏氏（75歳）JA中春別
小島 惟義氏（64歳）JAべつかい
山下 信明氏（62歳）JA根室

わが家の人気男

ごはんモリモリ、元気っ子

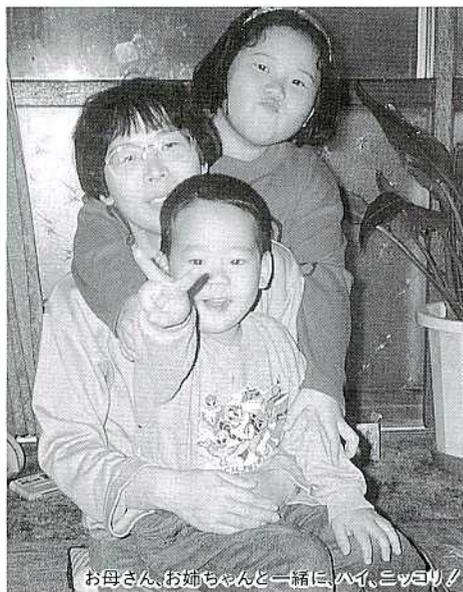


拓農地区 長瀨重樹・宇田子さんご夫妻
次男 昌樹くん(4歳)

ただいま四歳の元気いっぱいな男の子は、長瀨重樹さん宅の次男昌樹くん。「今日カメラ写してもらうんだ」といって、保育所から少し早めに帰ってきてくれたそうです。お姉ちゃんが二人とお兄ちゃんと四人兄弟の末っ子の昌樹くん。一番下なので甘えっ子なのかな？なんて思っただけ聞いてみると、「上のお兄ちゃんの方が甘えっ子。昌樹

はけっこうしっかり者なのよ」とお母さんの宇田子さん。興味があるものには、熱中する好奇心が旺盛なタイプなのだそう。テレビなんか見ていると本当に真剣に見入っているんだけど、お兄ちゃんの直樹くんと遊びだすともうおおさ

技「でんぐり返し」
最近身につけた



お母さん、お姉ちゃんと一緒に、ハイ、ニッコリ

わぎ。ケンカになると、泣き出しちゃうのは、お兄ちゃんの方だとか。そんなきかん坊のように見える昌樹くんも、十月の大きな地震でコワイ目にあつてから、お母さんの側を離れたがらないというカワイイ面もあるんです。
育ちざかりで、ごはんをモリモリ食べちゃう昌樹くんには、お母さんも体重が気になっちゃうようですが、そんな事おかまいなし。「ごはん、おいしくて、食べちゃうの」なんていうところがなんとカワイイ。
ビートや、いもの収穫時期には、お兄ちゃんと二人で、お父さんの四輪バギーを乗りこなし、後ろにソリを引いて、落ちたビートやいもを捨てるというおりこうさん。立派な働き手となっている名コンビに、長瀨家の将来が楽しみです。

を披露してくれたり、本当に元気いっぱいな昌樹くん。のびのび遊んで、たくさん大きくなって下さいね。



「でんぐり返し」は、お兄ちゃんが教えてくれました

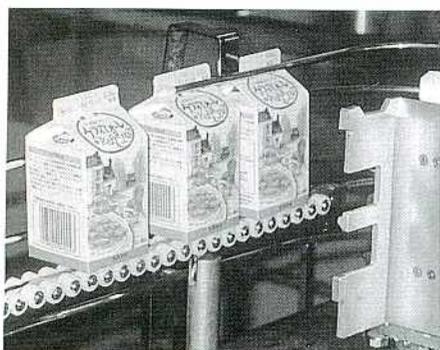
「ケフィアオーレ」全国に向け販売

乳製品工場の
完成を祝う



第1号の「ケフィアオーレ」を手伝喜びも大きい三友組長

今年9月から、中標津町依橋1368に建設を進めていた「ケフィアオーレ」を製造する乳製品工場が完成し、11月22日、落成式が行なわれました。



三友組長のスイッチオンでバック詰めされた第1号の「ケフィアオーレ」

ケフィアオーレは、今年三月下旬からケフィアミルクとして、中標津町畜産食品加工研修センターで試験販売を行っていたもので、人気も高く、健康飲料としての安定生産と販売を目指し、同工場の建設を決定したものの。

工場は平屋建て二百六十六平方で冷蔵室四四・四六立方計を持ち、生産能力は日産一千個。総事業費は七千五百万円。

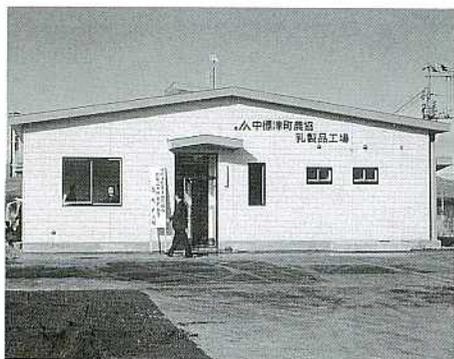
今までケフィアミルクという名称でビン詰でしたが、フランス語でミルク入りという意味の「オーレ」を用い、「ケフィアオーレ」に名前も一新、紙パック一層入り、五百cc入りの二種類を販売する。

落成式では、工場の安全操業を

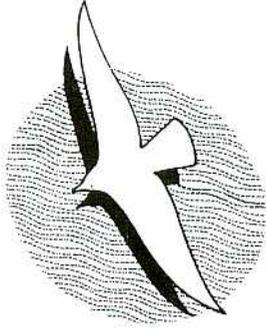
祈り関係者一同で玉ぐしがさきげられ、続いて三友組長が機械のスイッチを入れると、製品をパック詰めする充てん機が動き、五百cc入りの製品が次々とできあがり、出席者に配られました。

三友組長は、「生乳だけを使っただ、ケフィアの菌が生きている本物の味を届け、将来大きな地元産物の工場となつて行く事を願っている」と力を込め話されました。

このケフィアオーレは、Aコープ中標津店での販売に加え、ホクレンビル地下小ルーム、丸井今井地下ホクレンショップ、サッポロファクトリーなどでも販売されています。



完成した乳製品工場



新婚さんこんにちは



久本哲二さん(26歳)
己嘉さん(26歳)
旧姓・門間
俵橋、久本時雄さんの後継者



中学校の入学式が二人の出会いだったという哲二さんと己嘉さん。十数年の長い年月を二人で大切に見つめ合い、十一月十三日、村田雄平様ご夫妻のご媒約により結婚、新生活のスタートを切った。

哲二さんは俵橋地区で馬鈴しょ約三十鈴を作付し、乳牛(育成)六十頭を飼養する久本時雄さんの後継者。

一方、己嘉さんは、笹

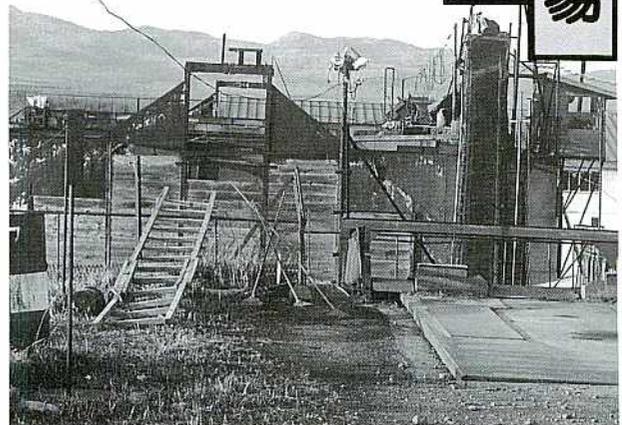
谷歯科医院で受付事務を担当していたという。「私に農業が出来るかが引っぱってくれたので」と話す己嘉さん。哲二さんは「あせらず少しずつ覚えていけばいいさ」という。

高校時代から始めたラクビーは今でも中標津ラガーで活躍中の哲二さん、テニスが得意の己嘉さんと、お互いスポーツを趣味とする仲の良い夫婦です。

合理化澱粉工場 操業終了する

処理量410,125俵

東方沖地震で 回収率下廻る



九月十一日から受入を開始していた農協合理化澱粉工場の操業が、十一月二十日に終了致しました。今年、干ばつ並びに軟腐病の発生に於いてかき茎の肥大が悪く、また九月中旬の長雨によって馬鈴しょの二次生長が発生し、今までになく澱粉価の低い年となりました(紅丸澱粉価平均一四・五九%)が、最終原料処理量は四十一万二千二百二十五俵を処理する事が出来まし

た。しかし、十月の東方沖地震による影響で、貯蔵していた馬鈴しょの腐敗並びに機械施設の損傷によって、澱粉回収率は前年を下廻って製品出来高は二十万一千三百二十五袋の生産にて終了致しました。生産者皆様のご協力の賜ものと厚くお礼申し上げますと共に、回収率向上のため澱粉工場職員一同来年に向けて努力して参ります。

平成六年十一月九日、十日に札幌市、グリーンホテル札幌を会場に、第四十二回全道JA婦人会が開催され、当婦人部から横田部長、井口副部长と事務局で出席いたしました。

全道各地から約六百人の参加で、九日の午後一時から、パネルディスカッションが開催されました。エッセイスト山崎洋子氏を講師に「女の自立、男の自

「女の自立、男の自立」をテーマに

第42回全道JA婦人会

立」をテーマに、山崎さん自身の生活の中での、色々な面での「自立」について話しは進められました。その後、三人のパネリストを交えて、さらに討議され、女性はもっと精神的な面での強さをもつて欲しい、男性には、毎日の生活の「あたり前」からの自立を望む事など、意見も活発に交わされました。その後、組織活動発表や、フレッシユミセスの主張、家の光



グリーンホテル正面で、左から横田さん、井口さん



全体懇親会会場にて

大会と続き、全地区集まったの全体懇親会では、根室地区を代表して井口副部长が素晴らしい歌声を聞かせてくれ、会場からたくさん拍手をいただきました。

二日目の本大会の全体討議では、申し合わせ事項の採択が行なわれ、各地区から活発な意見がかわされ、今後の活動方針を取りきめて、無事大会を終了いたしました。



持ち前の美声で会場を魅了

ヘルパー担当者が 変わりました

（有）ファム・エイの職員入事異動により、中標津地区ヘルパー担当者が一部変わりましたので連絡いたします。今後ともよろしくお願致します。

○星哲三（中標津担当から上春別担当へ）



○太田孝（上春別担当から中標津担当へ）



経営健全化の道を目指して

今年も一カ月を残すのみとなりました。

冬とは思えない陽ざしの中で師走を迎えました。ふところ具合もこの陽気のようにポカポカとしていれば良いのですが、現実に戻るとき、ふと溜息が出る思いです。

年末は組勘の整理と来年の営農計画の樹立の時期です。組勘は昨年比べて、十月現在で貸し方、借り方で三億三千万円程悪化しています。また農協経営も農家経済を反映して、例年になく思わしくありません。

営農計画の作成に際しては、計画書の冒頭に示してある基本事項を念頭において樹て下さい。

中長期の計画を持ち、この中で農場として、家庭としての明確な目標を設定して下さい。そして、その目標を達成するための第一年度としての来年の営農計画を樹立してほしいものです。

従来はなかなか発言しづらいことですが、健全な経営、家計の実現のために、敢えて書きます。

よく農協がお金を貸してくれないとか、農機具の導入を認めてくれないとかの話があります。

要望する方も、対応する方も相方に辛い思いをしている様です。農業は自主、自営、独立が原則で

●今月のたより……

組合長日誌

代表理事組合長
三友 盛行



すから、収入に相応しい支出、所得に相応しい家計があつて然るべきです。ほしい物、必要な物、必要であつても購入を暫くは見送るものもあります。自分の可能性の範ちゅうを冷静に見極めて下さい。



今年の組勘の残の直接の原因は牛乳の生産減にあります。もう一步踏み込んで見ると、牛乳を生産するシステムに問題がある様です。

近年、根室における牛乳の増産は生産資材などの多投入によって成立してきました。その結果、経費をかけなければ牛乳が生産されない構造になっている様です。

この経過の中で生産調整と経費の調整とのバランスがとれずに収

支が悪化しています。

パブルの好景気の中では見えなかった個々の体力の差が表面化してきました。この数年の内に体質改善と体力の増強を実現したいものです。

そのために農協の出来る事、農家の成すべき事の仕訳をしつかりと整理してゆく必要があります。

厳しい話しになりますが、経営が思わしくないのは、生産調整、乳価、個体価格の低落など、外的な影響もありますが、それ以前に、農家個々の経営に取り組む姿勢、農機具の導入、日々の農作業、家庭生活のあり方などに大きな問題があります。負債もまた重荷であることは事実ですが、負債が増加してゆく経営の生産構造にこそ問題の原因があると思います。関税自由化までの残り時間は決して多くはありません。

経営の健全化への道は必ずあります。まず自分の経営のあり方を俯瞰して下さい。そして、個々の成すべき事、農協に相談するべき事を冷静に判断して下さい。その時、体質改善への道が拓かれてくるものと信じます。

根室地区

J A 青年部大会

分科会
討議で方向性
をさぐる

どう考える根室酪農！

根室地区 J A 青年

部大会が十一月二十二日、中標津町トーヨーグランドホテルで開催され、管内から約百人の青年部員が参加しました。

昨年までは根釧合同で開催していましたが、今回は根室地区単独での開催となったもの。

大会テーマは「どうする根室酪農」(根室農業の五年間の方向を考える)で、講演、分科会、経営事例発表、全体討議と進められました。

講演では、「私の考える根室農業と農協の方向」と題し、J A 中央会中標津支所支所長・鈴木篤氏が講演。現状における農業、農協の状況を確認しながら、第三次基本構想の視点が話されました。



根室酪農の方向性を考えた青年部大会

その後、講演の内容、大会テーマを踏まえ、四分科会、第一、計画生産のゆくへと販売戦略を考える。第二、土地の流動化対策とコントラクターの可能性を考える。第三、行政、系統、農協に求めること。第四、環境(生活、営農、地域)を考えるが行なわれ、根室

農業の今後における方向性が、さまざまな角度から検討されました。

続いて、農業経営事例発表が行なわれ J A 西春別青年部・田中博行氏の「自給飼料確保と乳牛資質向上による経営安定を目指す」が全道大会出場に決定しました。

最後に、根室地区農青協菊地会長が、今回の分科会で協議された、根室農業の今後の方向性について第三次根室管内農業、農協基本構想策



土地の流動化対策とコントラクターの可能性を話し合った第2分科会

定にあたっての管内組合長会に、根室地区農青協の意見として要望して行きたいと力強くあいさつされ、閉会いたしました。

また、午後八時からは、懇親会が行なわれ、管内から約四十人が参加し、交流が行なわれました。

新鮮野菜に 価格も手ごろ

野菜生産組合朝市反省会



次年度に向け活発な意見が出された反省会

青空朝市で活躍する中標津町野菜生産組合（苦米地静子会長）では、今年度の朝市も終わり十一月十七日、中標津保養所温泉で反省会を開催しました。

今年の朝市は、五月二十日から九月三十日の毎週金曜日、計二十回開催され、その中で消費者にアンケート調査を実施、今回そのアンケート集計結果にもとずき協議が行なわれました。

総体的には新鮮で価格も手頃、品質共に良いとの評価。しかし、消費者の求める声の中には、無農薬、有機栽培をとの声もあり、これについては、農薬の使用基準を守り、低農薬栽培に心掛ける様確認されました。

来年は同組合も十年目を迎え、ひと区切りとなりますが、今後も継続して頑張っていきたいと話しております。

和牛研修会開催される



研修会に熱心に耳を傾ける参加者

肉用牛の付加価値を少しでも高めようと、昨年発足した中標津町和牛生産振興会（竹村満夫会長）では、11月10日、武佐の田中輝繁牧場で黒毛和種研修会を開催しました。

繁殖、哺育々成がポイント

はじめに和牛精液の在庫状況と各地の和牛市場動向について農協普及センターの担当者から報告が行なわれた後、講師の足寄町開拓農協、堀昇氏（平成四年畜産経営部門で天皇杯を受賞）から講演が行なわれました。

肉用牛の付加価値を求めて

堀氏は、「和牛経営は繁殖管理と哺育々成がポイント」と話され、これ次第で経営が大きく左右される事を、具体的に和牛を見ながら例を上げ説明されました。

夫婦同判で参加した会員は熱心に耳を傾け、メモを取る姿もあり



研修会に並べられた田中牧場の和牛

ました。

終了後、和牛肉の試食会が開催され、会員、関係機関約三十人が舌つづみを打ちました。

初の収穫、出来ばえは

ゴボウ、長イモの試験栽培

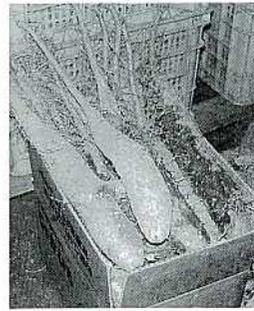
中標津野菜研究会

第三の作物を模索する野菜研究会（真野幸一会長）では、今年五月に作付したゴボウと長イモの収穫作業を十一月十四日、十五日会員宅試験圃場で行ないました。

収穫は、小型ユンボを使い畝側面を掘り上げ、あとは手作業でゴボウ、長イモを抜いた。今年には夏季間天候に恵まれたため、会員それぞれ期待を込めての収穫作業となった。長イモは、播種にトレンチャー



まずまずのゴボウに掘り取り作業にも力が入る



トレンチャー使用の長イモ

使用と未使用の圃場があり、トレンチャー使用の方はまずまずの出来、しかし未使用の長イモは、地下に伸びれず中間で丸く育ったものが多く見られました。ゴボウは全圃場トレンチャー使用の効果が、出、成りも真つ直ぐで、長さ約八十センチ、太さ一・五〜二センチほどのものが次々と掘り出されました。このゴボウは、中標津魚菜市场を通じ、青森県の市場から試験的に依頼栽培されたもので、この出来だと商品として発送出来そうとの事。

同研究会では、今年の栽培結果をもとに、来年度に向けていろいろな角度から検討して行きたいと話している。

過去最高 5.4t/反を 記録!

てん菜の 出荷終える

平均収量については、鈴当り五十四・六ト（五カ年平均四〇・六ト）平均糖分は、一六・一％（五カ年平均一七・五％）となりました。

今年には、糖分的には低かったものの、収量で補い、過去五カ年平均で比べると、二割以上の増収収入となりました。

平成六年度のてん菜出荷が十月二十日から始まり、十一月二十日で終了いたしました。

本年は、夏の高温、干ばつ、秋の長雨などで収穫が心配されましたが、糖分値は低いものの、収量は過去最高を記録し、実り多い年となりました。



理事会

の経過

第11回理事会

開催日時 平成六年十一月二十四日
開催場所 中標津町農協中会議室

〈議案〉

- 一、九月末仮決算の予算統制修正計画について
- 二、A T Mのリース更新契約について
- 三、定例自治監査の監査報告について
- 四、旧天災資金の取扱いについて
- 五、平成六年度共計澱粉の融資単価と利率について
- 六、澱粉工場固定資産の取得について
- 七、乳製品工場固定資産の取得について
- 八、乳製品工場機器のリースについて
- 九、各種制度資金の借入申込みについて
- 十、なかしべつフーズ貸付金利息の延納願について
- 十一、信用事業方法書の一部改正

について

〈協議事項〉

- 一、定例自治監査の指摘事項に対する改善について
 - 二、平成六年度生乳計画生産について
 - 三、第三期生乳安定生産対策について
 - 四、平成七年度営農計画樹立に当たっての基本姿勢について
 - 五、組合員勘定の中間協議について
 - 六、地区別懇談会の日程について
 - 七、桜ヶ丘農協所有地の利用方法について
- #### 〈報告事項〉
- 一、北部三農協組織整備検討委員会の進捗状況について
 - 二、平成六年度重点指導農家生乳特対枠配分量について
 - 三、参事のなかしべつフーズ(株)支援について
 - 四、北海道農業青年と関西女性との交流会経過報告について
 - 五、職員組合との交渉経過について
 - 六、平成六年度農村地域バスター需要拡大運動の取りまとめ結果について
 - 七、平成六年度伝染病等の対応経過について

年末年始の業務日程

休業

業務名	31日(土)	1日(日)	2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)	備考
一般業務								
貯金・組勤共済					午後3時迄	午後3時迄	午後3時迄	
A T M	正午迄				午後3時迄	午後3時迄	午後3時迄	
A コ ー プ	午後1時迄					平常業務	平常業務	12月18日(日)、23日(金)、25日(日)は営業します。
資材店舗						平常業務	平常業務	
農協前給油所	午後1時迄				午後5時迄	午後5時迄	午後5時迄	
桜ヶ丘給油所	午後1時迄				午後5時迄	午後5時迄	午後5時迄	12月23日(金)、25日(日)は営業します。
人工授精	受付午後1時		受付午後1時	受付午後1時	平常業務	平常業務	平常業務	31日、2日、3日は遅くの当番はありません。
生乳検査	正午迄 持込に眼る				平常業務	平常業務	平常業務	

●一般業務納め12月30日(金) ●一般業務始め1月7日(土)

暮らしの

知

恵

森



新しい年に向け
そして将来に
向けて！

北根室地区農業改良普及センター

今年も一年を振り返り、新しい年に向けて準備をする時期がやってきました。今年には地震という大きな自然災害もあり、何かせわしない一年でしたが、みなさんのご家庭にとってはどのような一年だったでしょうか。

一年を振り返り、そしてまた新たな目標を持ち生活するということは、それぞれが成長する上で大切なことであると思います。

私達の将来、そして目標を考えるとき、子どもの進学、就職、結婚や住宅の新・増改築、私達の老後の生活のことなど、そこには常

に大きな課題があるといえます。家族一人ひとりが成長し、豊かでありたい生活を目指すためには、家族みんなで将来に向けて考え、長期的な視点で我が家の将来像をつくるのが大切です。

一年を振り返るこの時期、来年に向けての目標はもちろん、長期的な将来についてもご家族で話し合われてはいかがでしょうか。

● 長期的生活設計のポイント
そこで、長期的な将来について考えるときのポイントをいくつか上げてみました。

①教育

家計に大きな負担をかける教育費。小さなうちから資金計画を考えておくことが大切です。中学生以上になれば、自分の将来についての具体的な希望や目標がみえてきます。できるだけかなえてあげられるよう計画しましょう。

＜計画のヒント＞

- 子供がどういう方向に進むかによって計画も大きく変わってきます。
- 小・中学校の段階でも、けいこ事などの費用を加えると、月々の家計費に大きな割合を占めることとなります。
- 私立の高校や大学に進んだ場合「初年度納入金」として、まとまったお金が必要になります。ことに、家を離れて通学する場合には「任送り」が大きな負担になります。

②老後

どんな老後の生活を送るか、お互いの健康のこと、農業のこと、住まいのこと、子供達のこと、年金などの経済生活のこと、そして趣味のことなど夫婦で話し合っイメージを描いてみることから始

税 知っておきたい 税の知識

記帳と決算

商売などをしていいる方が、自分の所得を正確に計算するために、毎日の取引をきちんと記帳し、保存しておく必要があります。

また、そうすることにより、経営内容を正確に把握することができ、事業の発展に役立てることができま

青色申告で正しい記帳を

記帳にも、簡単なものから各種の帳簿を備えた複雑なものまでいろいろありますが、定められた簡易帳簿など一定水準以上の記帳をし、その記帳に基づいて正しい申告をする場合には、所得の計算上有利な取扱いが受けられる青色申告の制度が設けられています。

青色申告をすることができるとは、事業所得、不動産所得、山林所得のある方です。

この青色申告をするには、青色申告をしようとする年の三月十五日までに「青色申告承認申請書」

我が家のしあわせ計画（長期生活設計）

		15年	16年	17年	19年	20年	21年
家族のイベント	(経営主)	42歳	43	44	56	57	58
	(その妻)	38歳	39	40	52	53	54
	長女	15歳 高1	16 高2	17 高3	29	30	31
	長男	13歳 中2	14 中3	15 高1	27	28	29
	次女	7歳 小1	8 小2	9 小3	21	22	23
	父	66歳	67	68	80	81	82
		歳					
親戚のイベント	先祖の法要 住宅新・改装・修繕 自動車、耐久消費財 海外旅行 サイフの要領etc		母 3回忌		夫婦で 旅行		
	作 目	8ha 水田耕作 作面積					
農業関係の計画	農業機械・施設		作業所 増設				
	経営要項・分担						
	土 地						
	教育に関する資金						
予測される必要資金	結婚、慶弔 //		30万円				
	住 宅 //						
	耐久消費財・型 //						
	老 後 //						
	余 額 //				50万円		
	積 累		300万円				
1) 将来必要な資金合計		330万円		50万円			
当てに出来る資金	貯蓄の満期・解約						
	保険の満期	●父			●妻		●子
	公的年金所得						
	農業者年金 その他						
2) 当てにできる資金合計							

めましよう。そして、その中から今からどんな準備が必要なのか、また可能なか整理してみましよう。

＜計画のヒント＞

●老後の生活で最も不安に感じるのは、生活に必要な資金です。生活費はどのくらいかかるのか、公的な年金はどのくらいもらえるのか、自己資金としてどのくらいい

貯蓄を目標にすればよいのか、について考えてみましょう。
●おおまかな目標を定め、その準備は年々厚みをもたせるように、無理なく、できる範囲で始めることに心がけて計画してみましょう。
このほか、「旅行、祝い事、法事」について、「住宅の新・増改築」「自動車・家財などの購入」など、計画を持った家計経済を進めていく必

要がありますし、「家族の健康」という点で、健康管理（食事、生活のリズム、定期的な健康チェック）も生活設計を立てる上で重要なポイントとなります。
これからの豊かな生活に向けて考えていきましょう。
※具体的な将来を見つめるため、ライフプラン表を作ってみるとよいでしょう。

を所轄の税務署長に提出して承認を受けることが必要です。

なお、年の途中で開業した方は、開業の日から二カ月以内に申請すればよいことになっています。

白色申告者の記帳・記録保存制度

白色申告をしていない方でも事業所得などがある方は、記帳や記録の保存などをしなければなりません。

●記帳制度

事業所得などがある方で、次のいずれかに当てはまる時は、帳簿を備付け、その年の業務に関する総収入金額や必要経費について記帳する必要があります。

(1) その年（記帳を行なわなければならないか）どうかを判定する年をいいます（前年十二月三十一日現在において、前々年分の事業所得などの金額が三百万円を超えている場合）。

(2) その年の三月三十一日現在において、前年分の事業所得などの金額が三百万円を超えている場合。



皆さんお馴染みの林家三右衛門師匠、忙しい中をさいでかけつけてくれました

巧みな話しに大笑い 10回記念 なかしべつ寄席

なかしべつサンツリー倶楽部主催による第10回 なかしべつ寄席が11月20日、ホテル秀月を会場に開催されました。

今回は10回記念として、1回目から連続出演している入船亭扇遊師匠を始め、テレビでお馴染みの林家三右衛門師匠を招いて行なわれました。幕開けには勇壮な中標津八郎太鼓の演奏も花を添え、会場は熱気であふれんばかりの満員御礼。用意した椅子も足りなくなり、立見客も出るほどの大盛況。会場では両師匠のたくみな話しに終始大笑いとなりました。



笑いは百薬の長 体も頭も健康巨

フ オ ト ア ス ル ズ ム

ボーリングで交流、発展的な懇談会



生活から経営分野と幅広い意見が出されました

婦人部ボーリング大会と職員との懇談会



オツと転ばないでネ、珍プレーも出て楽しい交流会でした

11月16日(水)に、婦人部ボーリング大会と、農協職員との懇談会を実施いたしました。午前10時半に、ウコウボールにてゲームスタート。17人の参加で、お昼までの時間を楽しく過ごしました。その後、農協へと場所を移して、資材課の飯島部長と岡課長、店舗の池田課長を招いて懇談会を開催。この会は、婦人がよく利用する各店舗について、疑問に思う事など発展的な意見で懇談しようとの事で計画されたもの。当日は、なごやかな雰囲気、笑いもてたりと有意義な時間となったようです。



なかなか良い形のソーセージが出来ました

形はどうあれ 味は格別

フレッシュミセス
ソーセージ作り

11月14日、18日にフレッシュミセスで手作りソーセージに挑戦、中標津町畜産加工センターへ。今回は、1班と2班に分けて、研修を受けることになり、両日あわせて13人の参加で実施いたしました。研修センターの方から説明を受けながら、豚肉を切る事から始め、腸につめてゆくのですが、この作業はなかなか難しく、皆さん悪戦苦闘していたようです。手づくりというだけあって形は大小さまざま。でも味は格別のソーセージが出来上がりました。



下準備もなかなか大変のようです

けん引作業に チャレンジ

(有)ファム・エイ



女性のヘルパー要員も積極的に参加、指導を受けながら頑張っております



この入り口部分が一番むずかしい前後で確認しながら慎重に

(有)ファム・エイでは、酪農ヘルパー業務のレベルアップを目指すため、10月21日、養老牛・本田牧場を会場に機械技術研修会を開催しました。

この研修会は、フリーストール牛舎による、ミキシングフィーダーけん引作業に対応出来る技術を身に付けようと開かれたもの。

当日は小雪の降る肌寒い日でしたが、少しでも技術の向上をと、参加したヘルパー要員全員、自分が納得行くまで何回もけん引バック作業にチャレンジしていました。

11月の 組合日誌

- 1日 農業後継者研修会
- 2日 第3回生産委員会
- 4日 第5回営農委員会
- 8日 第7回青年部役員会
- 15日 内部審査
- 16日 なかしべつフーズ取締役会
- ” 婦人部懇談会
- 17日 乳牛改良同志会役員会
- 18日 第6回営農委員会
- 22日 乳製品工場落成式
- 24日 第11回理事会
- 28日 乳検機械講習会
- ” ヘルパー利用組合役員会
- 29日 草地道営聞取り
- 30日 地区別懇談会

JAグループのテレビ番組 (厚生省中央児童福祉審議会推薦)

くらしの 探検隊

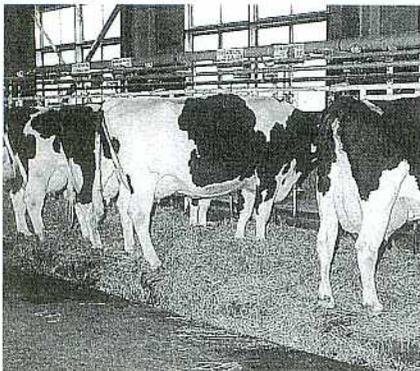


12月17日(土)	東野英心 「おじいちゃん の「福袋」」 (北海道・七飯町)	農村高齢者役割向上事業の一環として始められたワラ細工。緑起物の福袋をはじめ、自然乾燥米とアズキのセット「ふるさと便」にミニ俵を利用するなど成果も着々。お年寄りの暮らしやすい、ふるさとづくりをルポ。
12月24日(土)	東野英心 「先生たちの 農業体験記」 (東京都・国立市他)	小学校の社会科教育に生かしてもらおうと、JA東京みどり管内と東京都農業試験場で開かれた農業セミナー。参加した先生たちの目を通じて緑あふれる農業の姿、そのたいせつさ、JAの役割などを考えます。
12月31日(土)	東野英光 「アジアを結ぶ 田植え唄」 (佐賀県・西有田町)	同じ稲作文化圏の韓国やスリランカなどアジアの農家の人々が一堂に会し、交流する「田植え唄アジアフェスティバル」。民族色豊かな田植え唄や料理、酒などの交歓を通じて人々の心を結ぶ「農の国際草の根交流」を探検。

北海道放送(土) 9:30 提供●JAグループ/制作■家の光協会

酪農ヘルパー利用組合からお知らせ

**引き継ぎ表記入
の徹底を！**
ネックや耳標の装着を



酪農ヘルパー事業につきましては、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、酪農ヘルパー事業も6年目を迎え、現在2人対応2組、4人体制で1,040日の利用日数を目標に稼働しているところですが、最近引き継ぎ表の記入不徹底により、小さなトラブルが発生しております。まだ大きな事故には至っておりませんが、今後において大事故につながる危険性を秘めております。ヘルパー利用(2人対応)にあたっては、必ず引き継ぎ表に記入し、ヘルパー要員と綿密な引き継ぎを行なってください。特に、乳牛個体確認については、ネックや耳標などを装着すると共に、抗生物質を使用した牛や牛乳出荷の出来ない牛については、目印(スプレーやマークバンドなど)を付け、所定の引き継ぎ用紙に記入して下さい。また、引き継ぎ用紙については事務局(農協経営相談課組織広報係)にありますので、事前に取りに米して下さい。ヘルパー事業の円滑な運営を計るためにも、組合員皆様のご協力をお願いします。